

## 平成20年度子どものインターネット利用に関する

## 保護者アンケート調査結果の公表

子どもがインターネットや携帯電話の利用を通じて犯罪やトラブルに巻き込まれることは、大きな社会問題となっています。財団法人インターネット協会では、このような現状を踏まえ、家庭におけるフィルタリングソフトの認知状況や利用状況、保護者の意識等に関する調査を平成17年度より毎年実施しています。

本調査は、インターネットを利用する子どもを持つ保護者から、インターネット(パソコン)を利用した調査によるもので、家庭のパソコンや携帯電話等におけるフィルタリング利用の実態を把握し、フィルタリングを普及啓発する上での障害や今後の課題を定量的に明らかにすることを目的としています。そのため、対象は普段よりインターネットをよく利用し、様々なサイトを閲覧する機会の多い保護者とし、問題意識を抽出するために実施しました。

インターネット協会としては、このような情報提供を通じ保護者により理解していただき、子どもと一緒にリテラシーを高めてほしいと願っております。今後とも関係者と協力しつつ、子どもが安全に安心してインターネットを利用できる環境の実現を目指していきます。

テーマ	子どものインターネット利用実態調査
実施期間	2008年12月3日～2008年12月5日
対象者	全国にお住まいの20才以上で、家庭のパソコン・携帯電話・ゲーム機・テレビのいずれかを使ってインターネットを利用している子どもを持つ保護者
調査方法	インターネット(パソコン)を利用した調査
回答者数	第1子が小学4～6年生の保護者 1320名 第1子が中学1～3年生の保護者 1320名

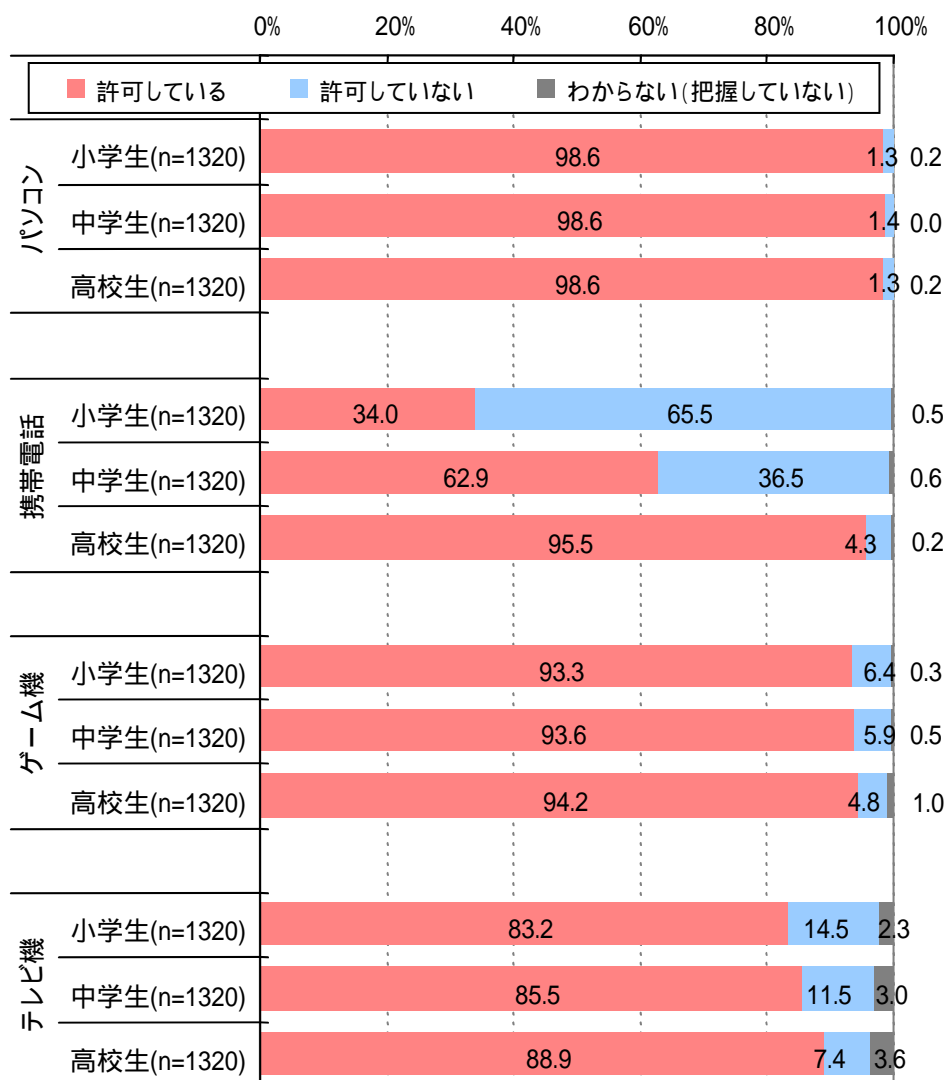
	第1子が高校1～3年生の保護者 1320名（合計3960名）
--	--------------------------------

## アンケート結果の概要

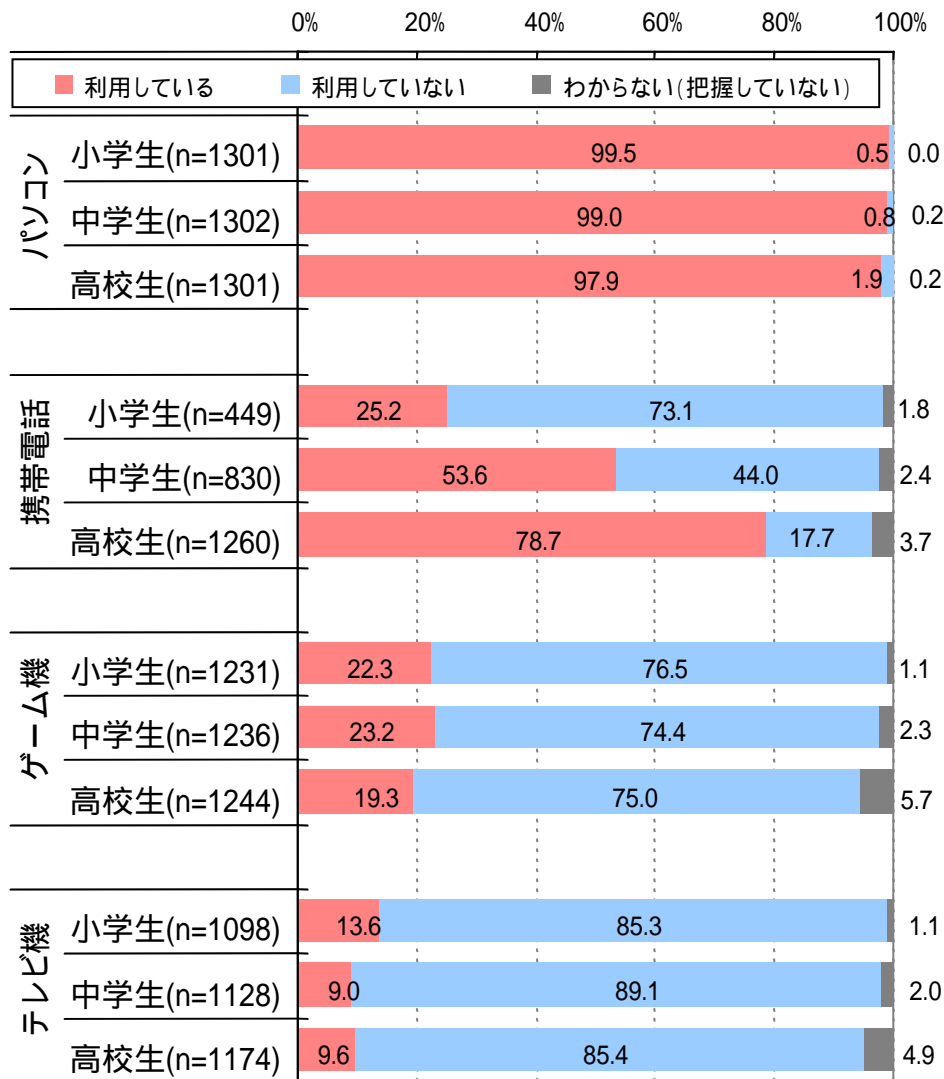
### 1. 子どものインターネット利用率

回答者3960人の子どもへの各機器利用許可率と、各機器を利用している子どものインターネット利用率は以下のとおり。

#### 1-1子どもへの機器の利用許可率

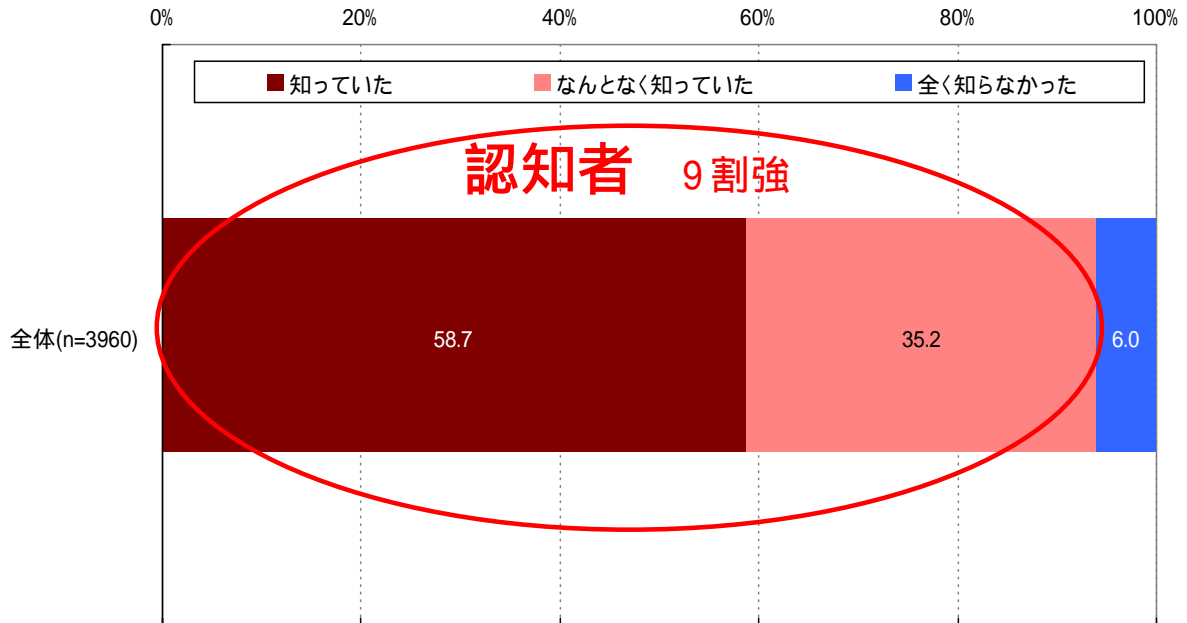


#### 1-2 機器を利用している子どものインターネット利用率



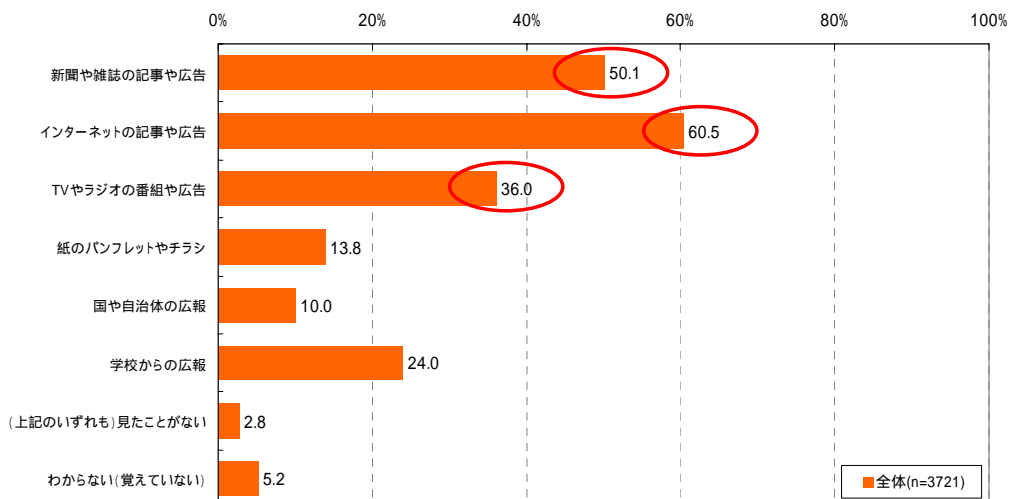
## 2. 保護者のフィルタリングの認知率

保護者のフィルタリングの認知率については、「知っていた」(58.7%)と「なんとなく知っていた」(35.2%)とあわせると、9割強(93.9%)となり、昨年度の認知率(89.9%)をやや上回る結果となった。



### 3. フィルタリングの認知ルート

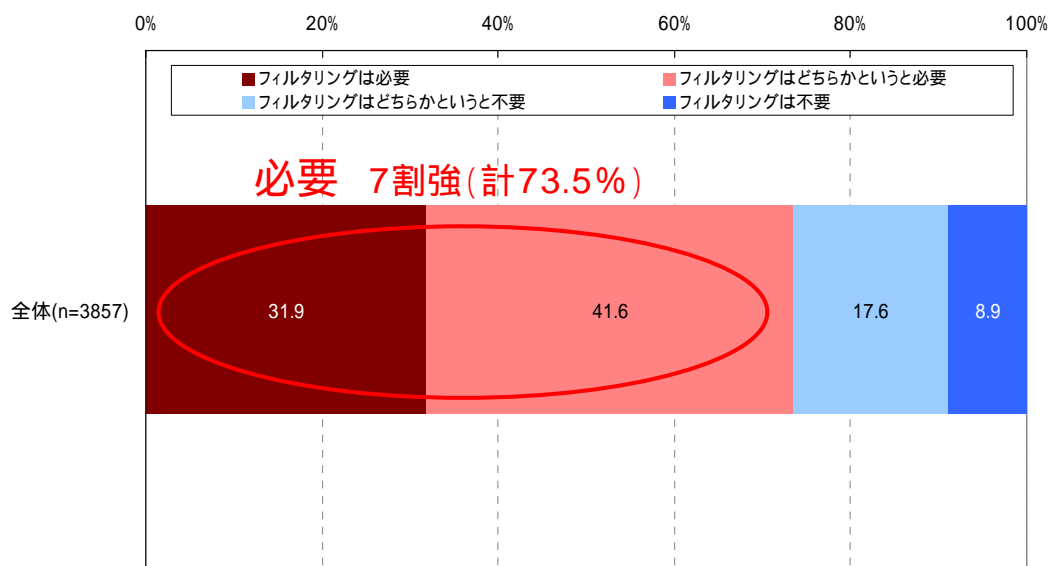
フィルタリングの認知ルートについては、「インターネットの記事や広告」(60.5%)、「新聞や雑誌の記事や広告」(50.1%)、「TV やラジオの番組や広告」(36.0%)といったマスメディア系の媒体の回答が多い。とくに、昨年度調査では「新聞や雑誌の記事や広告」(32.4%)、「TV やラジオの番組や広告」(21.1%)であったので、これらの媒体を通じた認知が大幅に伸びている。



### 4. フィルタリングのニーズ(パソコン利用者)

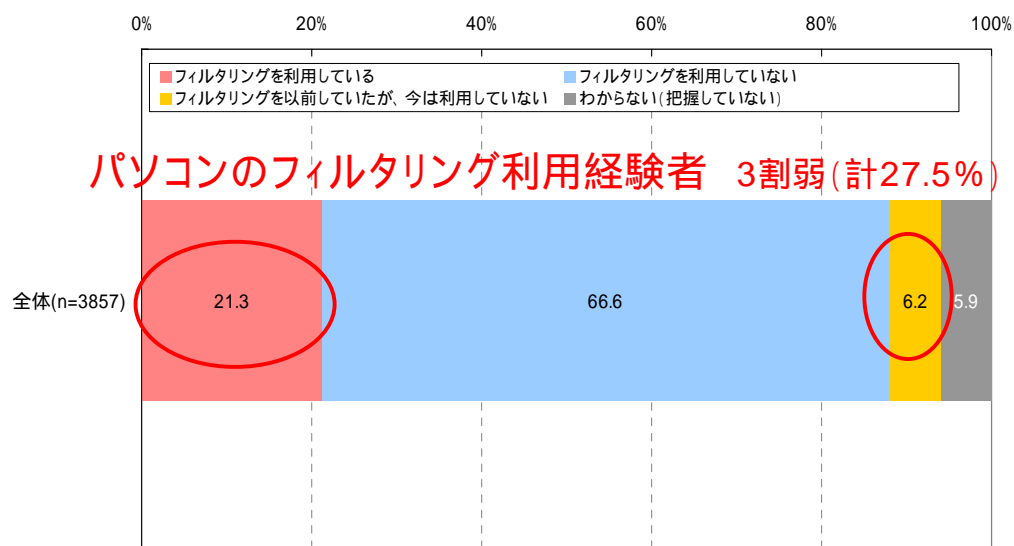
家庭のパソコンでのフィルタリングに対するニーズについては、「必要」(31.9%)と「どちらか

という必要」(41.6%)をあわせると、7割強の保護者がフィルタリングを必要だと感じており、「不要(どちらかといえば不要も含む)」(26.5%)を大きく上回る結果となった。



## 5. フィルタリングのニーズ(パソコン利用者)

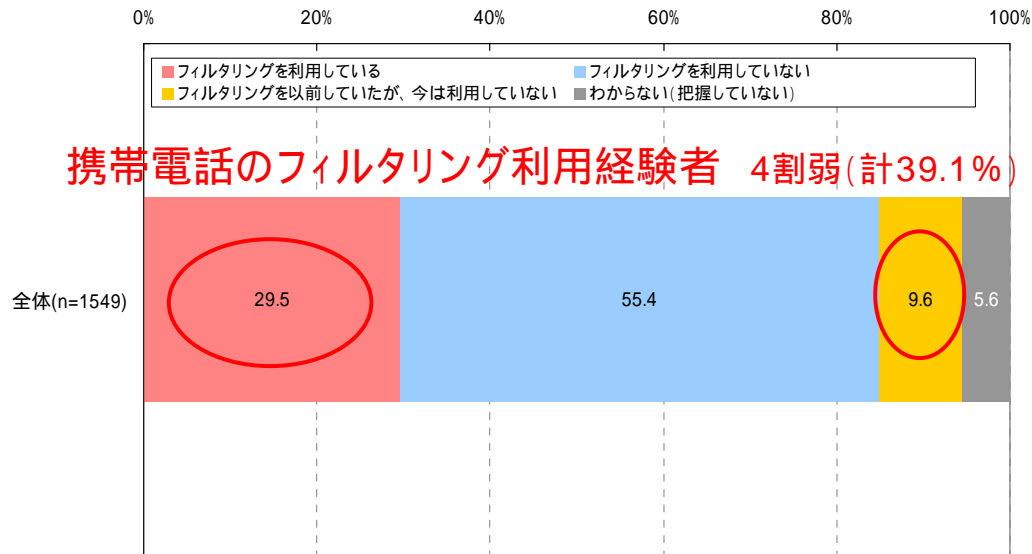
家庭のパソコンでのフィルタリング利用率については、約2割(21.3%)であった。「以前していたが、今は利用していない」(6.2%)とあわせると、フィルタリング経験率は3割弱(27.5%)となる。昨年度調査のフィルタリング利用率(19.7%)、経験率(25.2%)を若干上回る結果となった。



## 6. 携帯電話でのフィルタリング利用率

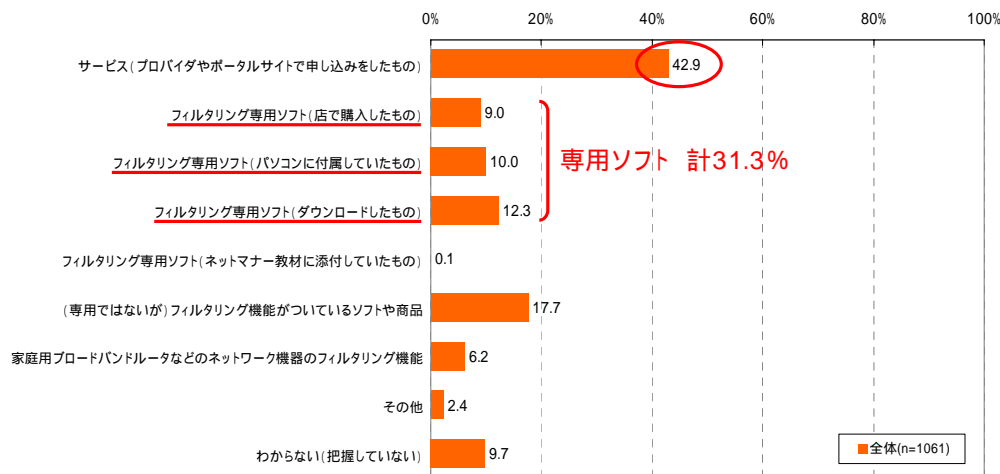
携帯電話でのフィルタリング利用率は、約3割(29.5%)である。パソコンでの利用率(21.3%)よりも高い結果となった。「以前していたが、今は利用していない」(9.6%)とあわせると、フィ

ルタリング経験率は4割弱(39.1%)となり、こちらもパソコンでの経験率(27.5%)より高い。



## 7. 家庭のパソコンで利用しているフィルタリングツール

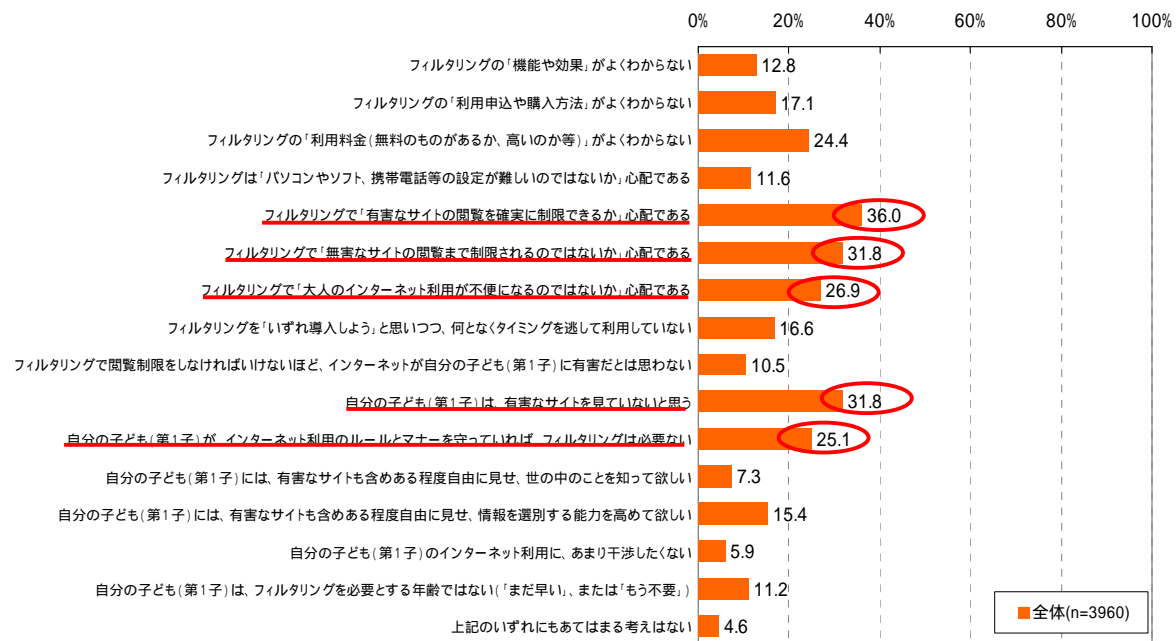
家庭のパソコンで利用している(していた)フィルタリングツールについては、「プロバイダやポータルサイトのサービス」(42.9%)や、「フィルタリング専用ソフト(ダウンロードしたソフト)」(12.3%)、「パソコンに付属していたソフト」(10.0%)、「店で購入したソフト」(9.0%)を挙げる人が多かった。



## 8. フィルタリングに関する意識

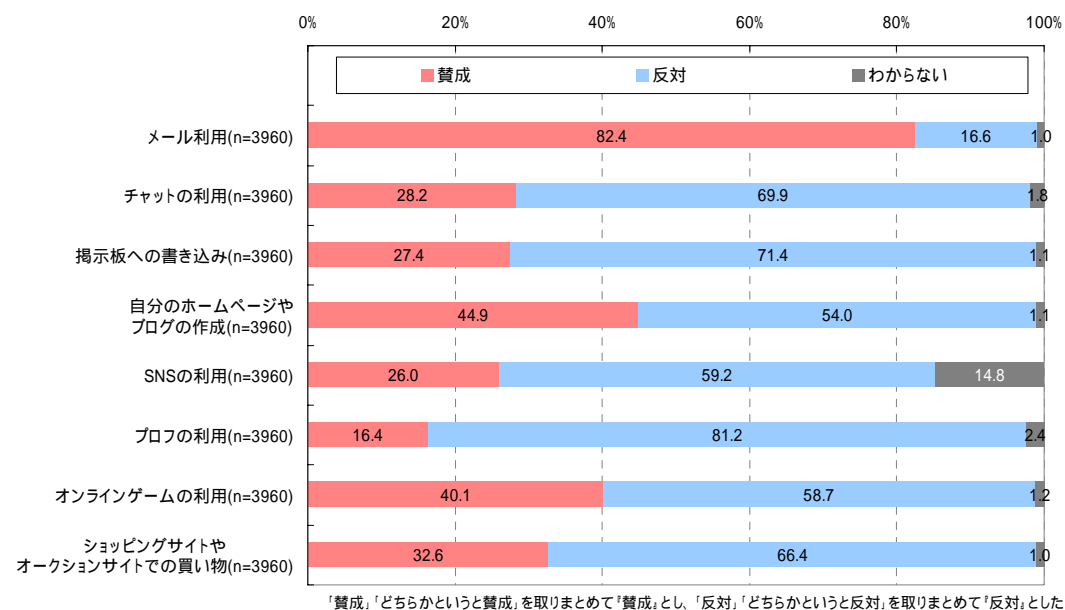
「フィルタリングのイメージ」や「子どものインターネット利用」に対する考えを聞いたところ、フィルタリングについては、性能・正確さに対する不安や、ネット利用がしづらくなるのではないかという懸念を感じている保護者が多かった。一方、子どものインターネット利用については、そもそも有害サイトに接触していないという考えのほかに、「自分の子どもがインターネット利用のルールとマナーを守っていれば、フィルタリングは必要ない」(25.1%)など、

フィルタリングで規制するよりも子ども自身が正しく利用するべきだと考える保護者が比較的多かった。



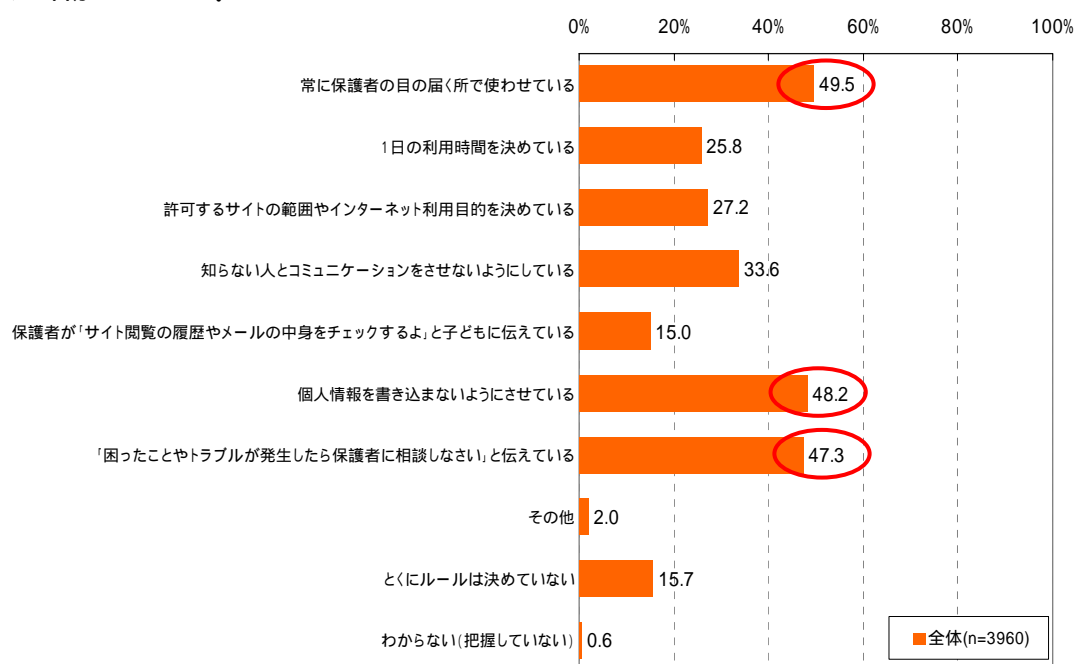
## 9. 子どものネット利用に対する賛否

子どものネット利用に対する賛否については、メール利用に対しては保護者の8割以上が「賛成」と回答しているが、他の項目に対しては「反対」が過半数を占めた。「反対」が多かったものは、順にプロフの利用(反対81.2%)、掲示板への書き込み(同71.4%)、チャットの利用(同69.9%)、SNSの利用(同59.2%)となっており、不特定多数とやり取りをしたり、個人情報を公開するようなサービスを子どもが利用することに慎重な姿勢がみられる。



## 10. 子どもに守らせている「家庭でのネット利用ルール」

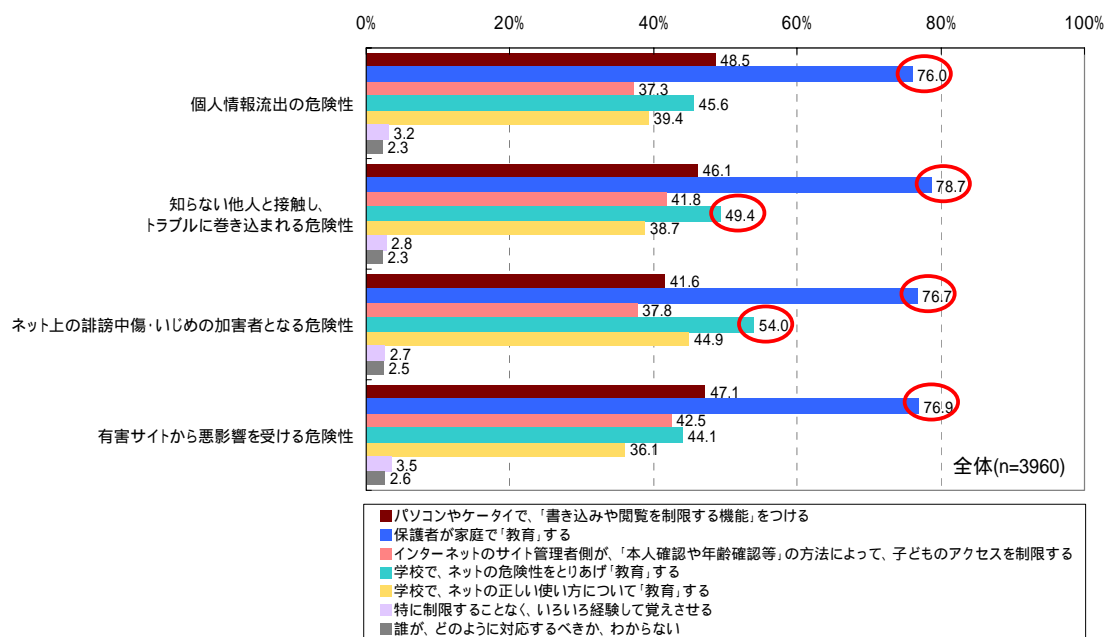
家庭でのインターネット利用時にルールを決めているかどうかについては、「常に保護者の目の届く所で使わせている」(49.5%)、「個人情報を書き込まないようにさせている」(48.2%)、「『困ったことやトラブルが発生したら保護者に相談しなさい』と伝えている」(47.3%)といった回答が多かった。昨年度調査と比べると、「常に保護者の目の届く所で使わせている」(昨年度 36.5%)、「知らない人とコミュニケーションさせないようにしている」(昨年度 23.4%)、「個人情報を書き込まないようにさせている」(昨年度 41.2%)、「『困ったことやトラブルが発生したら保護者に相談しなさい』と伝えている」(36.7%)といった項目への回答が増加している。



## 11. ネット上の危険を避けるための対策

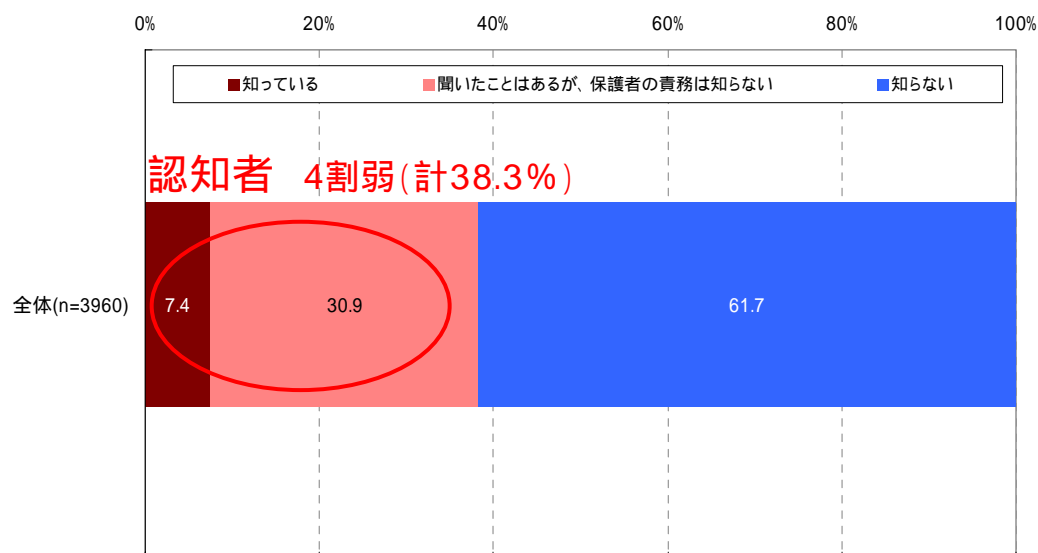
ネット上で遭遇する危険性のあるトラブルを挙げて、それらを回避するための対策を聞いたところ、どの危険に対しても「保護者が家庭で『教育』する」が顕著に高く(約 8 割)、保護者の多くは、ネット利用に関する家庭での教育や指導が重要であると考えていることが分かる。また、他人との接触でトラブルに巻き込まれる危険性とネット上の誹謗中傷・いじめの加害者となる危険性に対して、「家庭での教育」の次に「学校で危険性をとりあげ『教育する』」が約 5 割に達しており、いじめやトラブル回避に関しては家庭だけでなく、学校側の積極的な関与も望まれているといえる。また、「インターネットのサイト管理者側が本人確認や年齢確認等の方法によって、アクセスを制限する」は約 4 割あり、インターネット事業者(企業)への体制強化への期待も大きいことがうかがわれる。





## 12. 「青少年インターネット環境整備法」の認知率

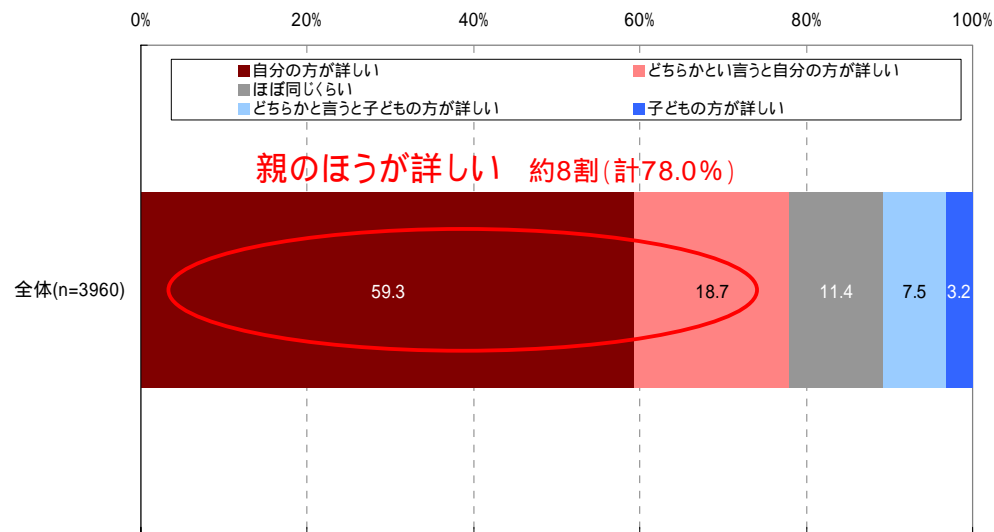
2008年6月に成立し、2009年4月1日に施行された「青少年インターネット環境整備法」の認知率については、認知者は4割弱(38.3%)となっているが、保護者の責務まで含めて「知っている」が7.4%と1割を下回る結果となり、未だ低い割合にとどまっている。



## 13. パソコン・ネットに詳しいのは、保護者と子どものどちらか

保護者自身と子どものどちらがパソコンやインターネットに詳しいかを聞いたところ、「自分のほうが詳しい」(59.3%)が約6割を占め、「どちらかと言うと自分のほうが詳しい」(18.7%)

とあわせると、8割弱の保護者は自分のほうが詳しいと回答している。



### (参考)インターネットリテラシーの区分

保護者のインターネットリテラシーについて、下記表のとおり、設問: ブログ・SNS・掲示板の閲覧頻度、ブログ・SNS・掲示板の開設/運営頻度を基準として、回答者 3960 人を区分けした。

		ブログ・SNS・掲示板の 閲覧頻度			
		ほとんど毎日	週に3~4回	週に1~2回以下	行っていない
ブログ・SNS・掲示板の 開設/運営頻度	ほとんど毎日	リテラシー <b>高</b> ( 516 人)			
	週に3~4回				
	週に1~2回以下	リテラシー <b>中</b> ( 2351 人)			
	行っていない				リテラシー <b>低</b> ( 1093 人)